

## お母さんの仕事と

### 乳幼児保育の問題

白梅学園短期大学 久保 い と

育児上もっとも手間のかかる一、二才児の福祉が、母親の労働とどのような関係におかれているかを、母親を対象とした質問紙調査によって明らかにした。白梅学園短大におけるゼミナールのテーマとしてとりあげたため、調査地域は学園周辺の東京都杉並区高円寺六、七丁目、馬橋四丁目をえらび、住民票によって昭和三十一年一月以降出生の乳幼児をもつ五七四世帯から二〇〇世帯を無作為抽出して、質問紙を郵送した。回収率は八〇%である。

質問Ⅰ 「おたくではお母さんは毎日どんなお仕事をしていますか。」

中産階級の住宅地であるために、七六%は「家事だけしている」、その他「家業のつてだ」または何らかの職業をもつ人が二三%。

質問Ⅱ 「お母さんがお仕事のあいだお子さんの保育はどなたがなさいますか。」

「家事だけ」している母親の場合、七六%が自分で保育し、家人が二二%、他人にたのむが二%となる。これらの母親たちでも、質問Ⅲ 「三才以下の小さいお子さんのための保育施設の必要性についてどのようにお考えですか」については、七七%までが「必要」と答えている。その理由については巾広い要求があげられている。

一方職業をもつ母親の六四%までは、ひとりで仕事と家事と育児の三重責任を負っており、「家族が保育する」二六%、「他人にた

のむ」一〇%という結果が出た。故に職業をもつ母親の八五%が乳幼児保育施設の必要を痛切に訴えていた。このりの一五%は女中さんなどによりすでにこの問題を個人的に解決済みであった。これらの母親たちは清潔で愛情にみちたい施設が早くできることを望んでいた。特に保育料については、真に必要な人たちが十分利用できるように低廉または無料であること、そのためには国の社会保障政策の一環として運営される施設であることを指摘していた。

### 三才組の保育材に対する

#### 適応の変化

東京・神田寺幼稚園

阿部 明子  
森 崎 枝  
深 野 浩 代

主旨 従来、見落とされがちであった三才児の保育計画をたてるために、その基礎資料となる、幼稚園における三才児たちの実態を捉えることを目的とした。

方法 (A) 保育計画をたてるために必要であり、また、子どもたちの変化を把握しやすい行動を取りあげ、次の一二項目を設定した。

・ 全体の傾向・運動能力・生活発表・お話・質問による思考と感情の変化・絵画・製作・粘土・歌と楽器・遊びと競技・ごっこ遊び・園外保育

(B) 過去二年間の保育観察記録ならびに評価反省録より、上記項目の行動を摘出、月別に整理する。

(C) 二年間の共通点および、現在あるいは過去八年間の観察を参

考として、保育上欠くことの出来ない変化をとりあげ、月別、項目別の表とする。

**結果の考察** (1)他の年令より、なお一層、月令による発達差がはっきりあらわれている。(2) 心理的にみた各年令の発達の特徴が、行動にそのままあらわれていることが多い。(3) 年々三才児がしっかりしてくるよう感じられていたが、集団としての行動や、保育材に対する適応の仕方には、あまり変化がみられなかった。(4) 三才児に適した保育方法や保育技術が考えられなければならない点がはっきりした。(5) 保育材、とくに、お話、歌、曲なども同様、三才児に適したものが創作されてゆかねばならない。

## 幼児期に芽ばえた

### 神仏観念の調査(第二報)

東京・神田寺幼稚園

友松 あきみち

井山 不二子

高園 敏子

昨年の保育学会では幼児期の神仏観念がどのように現われ、どのような内容をもつて発達していくか、また幼稚園においての宗教教育が幼児にどのような影響を及ぼすかを、神社、仏教寺院、キリスト教の旧教と新教、個人立、あわせて都内一九園の幼稚園児を対象にして調査報告した。今年度は歴史的な人物としての敬尊を、その宗教教育の中心として扱っている当園園児を対象にして、幼児期の神仏観念がその成長発達にしたがってどのように変化するかを、年令、知能、情緒、家庭環境との関係において調査した。

調査方法は個人面接による発問法ならびに描画を併用したもので

内容は昨年度と同じ。その他の調査としては描画における色の傾向、性格情緒面の検討、祖父母の有無などについておこなった。

昨年度に引き続いた調査から結論としていえることは、神観は四才になって、ほぼ確立をみるようであり、知能の高い者は、すでに五、六才にかけて神を至上至善のものとすることの一つの世界観に到達することが出来るようである。

保育施設や、家庭環境において、特別に宗教教育をほどこさずとも、今日幼児を取り巻いている環境が、このような世界観を作り出す方向にあるということは、幼児期の道徳意識もまたそのような生活基盤をもっているということが言えよう。この調査は、その意味で今後諸外国の神仏観について対比を求めると同時に道徳教育についての基礎資料を見出す役目をはたしたいと考えている。

## 幼児教育誌を通じてみたわが

### 国保育界の動向(第三報)

——特に幼稚園令制定前後の事情を中心として——

尚綱女学院短期大学 本 田 和 子

前回と同様、「婦人と子ども」誌を継続的に考察することにより、幼稚園令制定に至る大正期保育界の歩みを跡づけようとした。誌上の諸記事进行分类整理して、発表頻数の多いものを中心に、主として次の二つの面から考察した。すなわち、当時の保育界の内的事情と、保育界をとりまく外部社会一般の保育界に向ける関心・態度などの、二つの面からその動きを捉えることを試みた。

結果としては、幼稚園令制定に至らしめた原因として次のような